

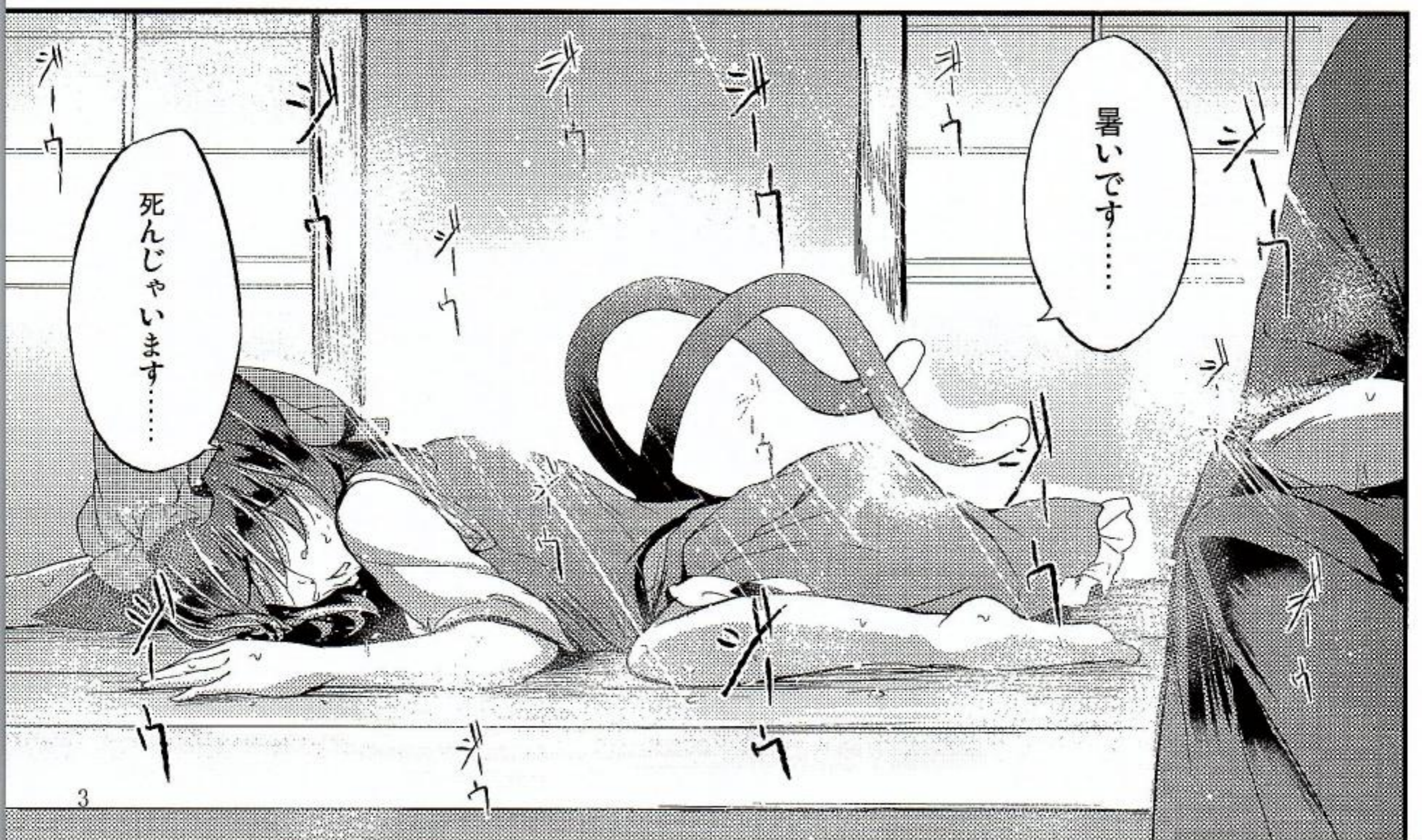
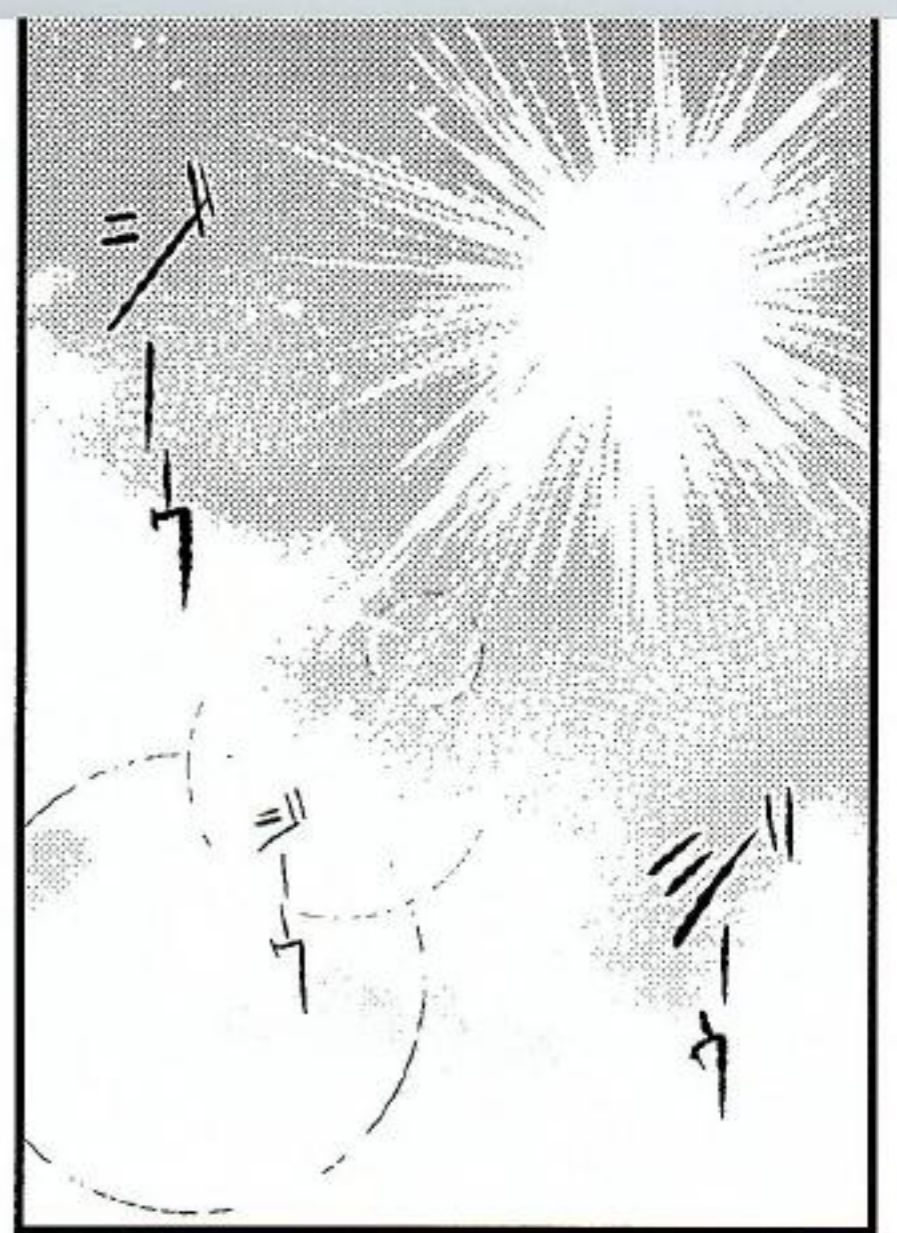
「ムツミゴト」  
睦言・肆

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止











そんな  
大げさだなあ

なんでお兄さんは  
そんな平然と  
してるんですか……

まあ単純に  
外の世界の方が  
暑かったからね

地球温暖化とか

温室効果ガスとか

外の世界  
怖いですが……

ああ……  
ひんやりして  
気持ちいいです……

私縁側と  
結婚する……

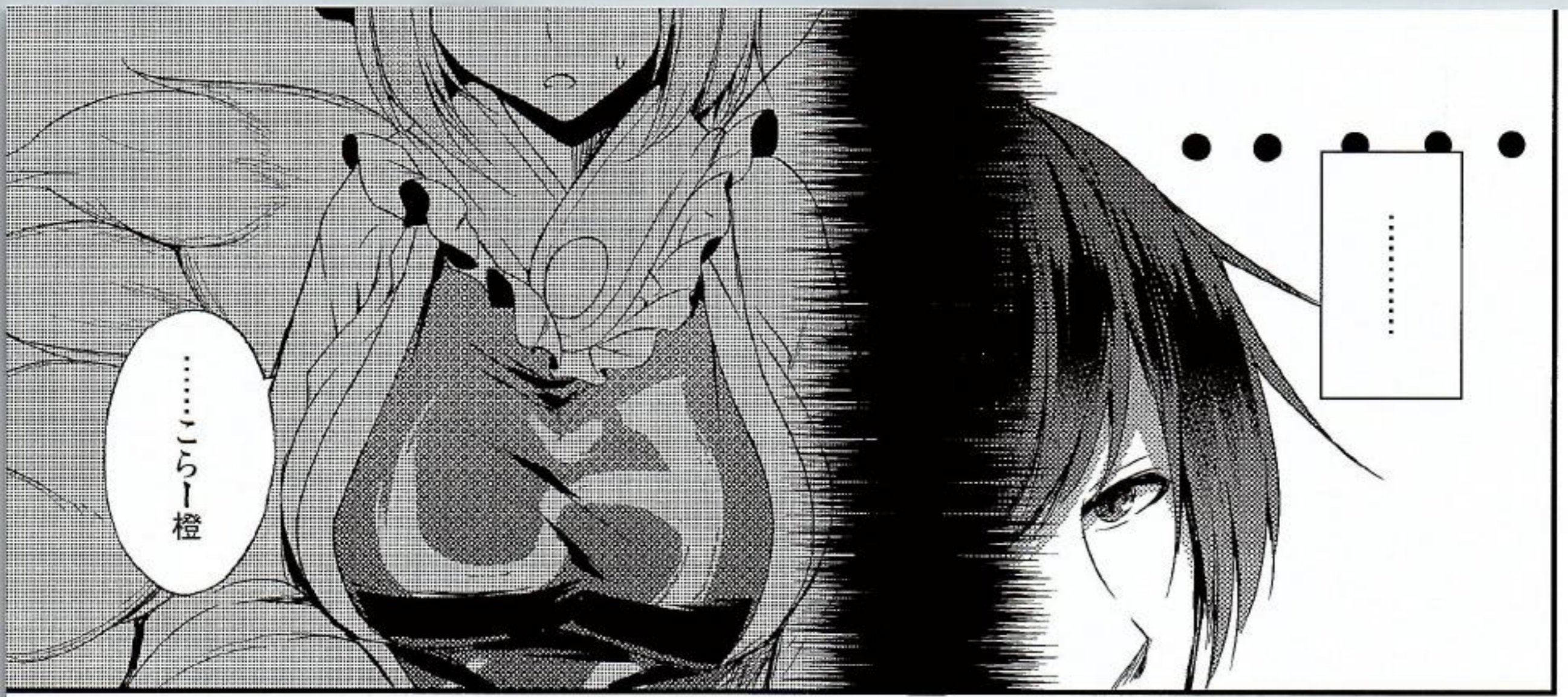
冬になったら  
離婚して  
炬燵と再婚するんだ……

魔性だなあ

ゴロ

ゴロ♡





……いやー  
橙

……



気持ち  
いいのはわかるが  
縁側に  
寝っ転がるんじゃない

うん……

だって……




寝っ転がってたら  
アイツに襲われるぞー  
見境ないからなー

にゃー  
いやですー

そんな人を  
ケダモノみたいに






揺れる尻尾に合わせ  
捲れ上がったスカートから  
健康的な色をした  
細い太ももと白色の下着が  
ちらちらと顔を覗かせる

それに誘われるようにして  
橙の尻に手を伸ばし  
撫でるように触れてやると  
身体がピクンと跳ねる

さわ



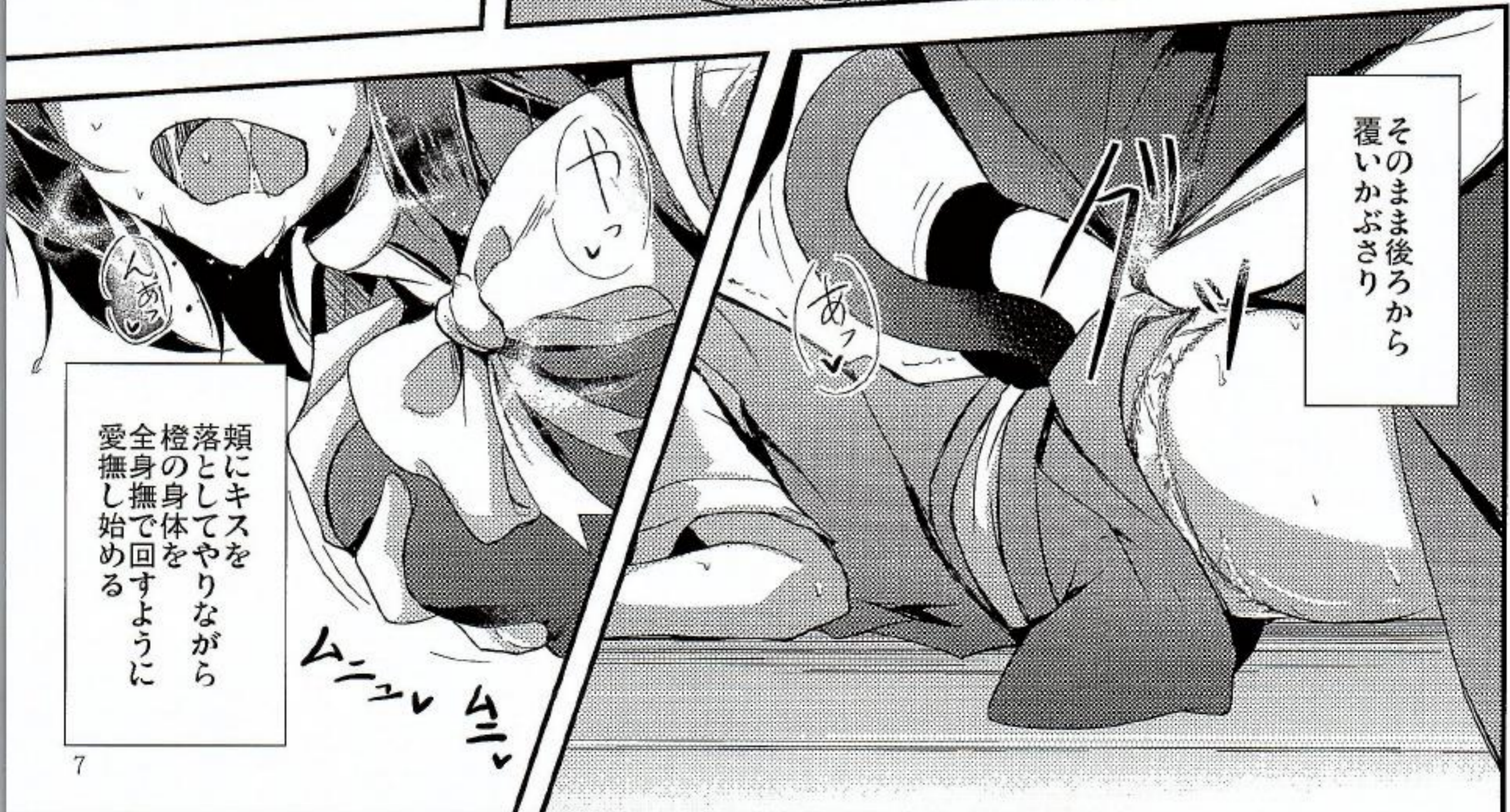
柔らかい肉付きの脚を  
内股の部分を中心にこね回し  
小さな尻と  
細い太ももの感触を堪能する





しばらく  
撫で続けてやると  
身体が強張っていくのが  
伝わってくる

不安そうな瞳を  
向けてきたりとこういった  
未だに初心な感じが  
実に可愛らしい



そのまま後ろから  
覆いかぶさり

頬にキスを  
落としてやりながら  
橙の身体を  
全身撫で回すように  
愛撫し始める





後ろから抱きしめたまま  
一緒に縁側に横たわり

橙の固く閉じられた  
太ももを押し分けるよう  
下着の上から  
小さいワレメに  
愚息を擦り付ける

柔らかな太ももが  
愚息を圧迫し  
下着越しの刺激が  
実に心地よい



橙の秘所はすぐに濡れ始め  
潤滑油替わりにと  
言わんばかりに  
太ももまでぐしょぐしょに  
愛液を滴らせてきた



橙も刺激を受けるたび  
ピクピクと  
身体を反応させる






橙の身体が  
昂ぶるのを見計らい  
下着を脱がし

縁側の縁に横たえさせ  
濡れそぼった  
綺麗な幼い秘裂を  
眼前に晒させる

羞恥に顔を歪ませるが  
秘所は待ちきれないかのよう  
ひくひくと震えていた








橙に覆いかぶさるように  
濡れそぼったワレメに  
愚息をあてがい一気に貫く

押し返されるような  
膂肉の抵抗を無視し  
無理矢理気味に  
橙の最奥まで蹂躞していく



敏感になってるのか  
挿入しただけで  
軽く達してしまったようで  
上半身をビクンとのけぞらせた



落ちて着いた頃合いを見て  
抽送を開始する

狭い膣内が押し分けられ  
多少苦しそうだが  
快楽の方が  
勝っているようで

我慢と羞恥で  
固く結ばれた口が  
だんだん綻びを見せていく

小さな胸の突起を  
舌で転がし  
ちゅうちゅうと

赤子のように  
吸い上げてやると  
実に可愛い反応を  
見せてくれる

はっ♡

あっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡





汗と体液が交じり合い  
腰を打ち付ける度  
卑猥な水音を響かせた



もはや  
不相応な大きさの  
愚息を受け入れている  
苦痛も忘れ

ただただ純粋に  
恋慕の情を向け  
こちらを  
求めてくるようになった



暑さと快樂で  
若干グロッキー気味の  
橙を縁側に押し付け

犯すかのように思う存分  
膣内の感触を味わう





激しい絶頂と共に  
橙の最奥に  
溢れんばかりの欲望が  
容赦なく注ぎ込まれていく

飲み込みきれなかった  
精液がごぶりと溢れ

愚息を引き抜くと  
名残惜しそうに  
縁側へと零れ落ちていった



橙の膈内に  
たっぷり出した後――

チュル……

チュパ

チュル

チュツ

チュ

ズツ

ゴプ

もうよくわからな  
い体液  
まみれになりなが  
らも  
愚息についた精液  
を  
橙の口で掃除して  
もらう

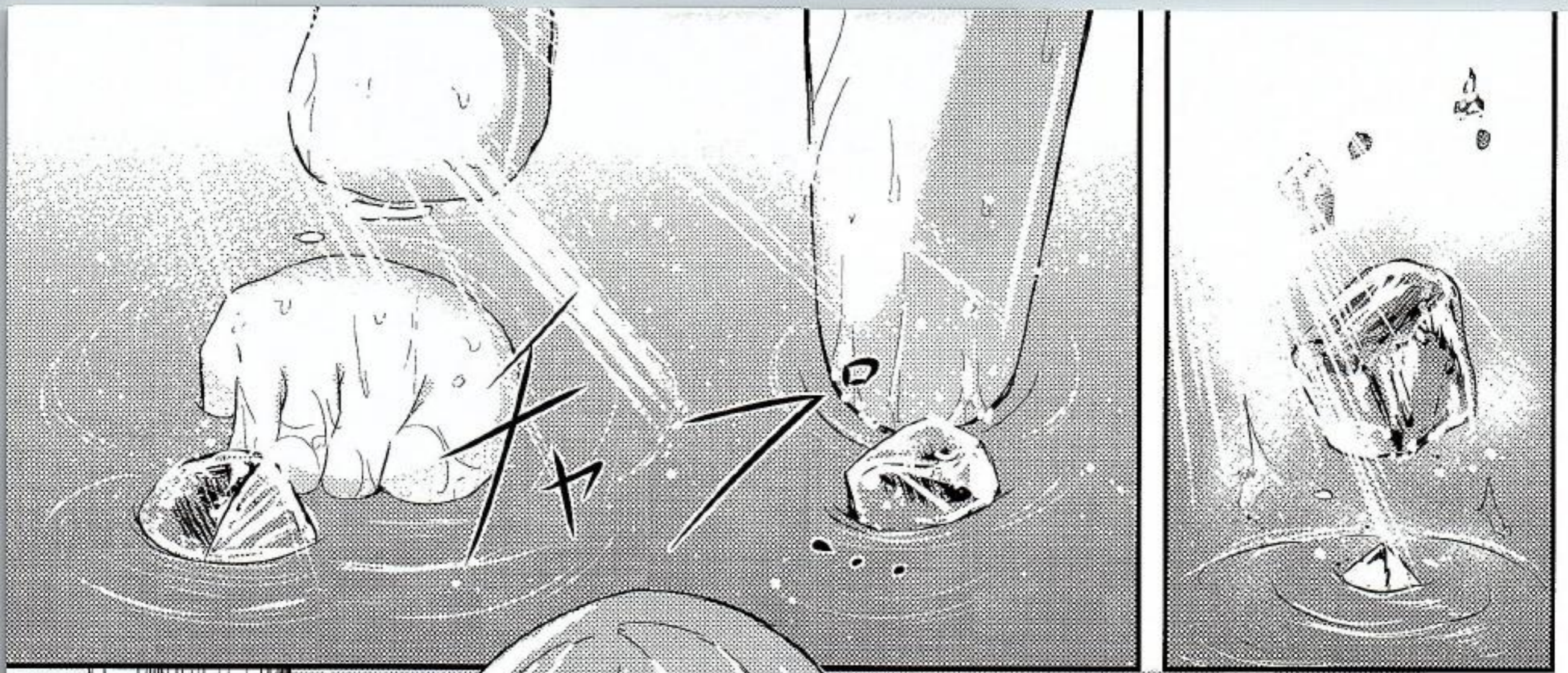
……  
暑いですね

チュツ

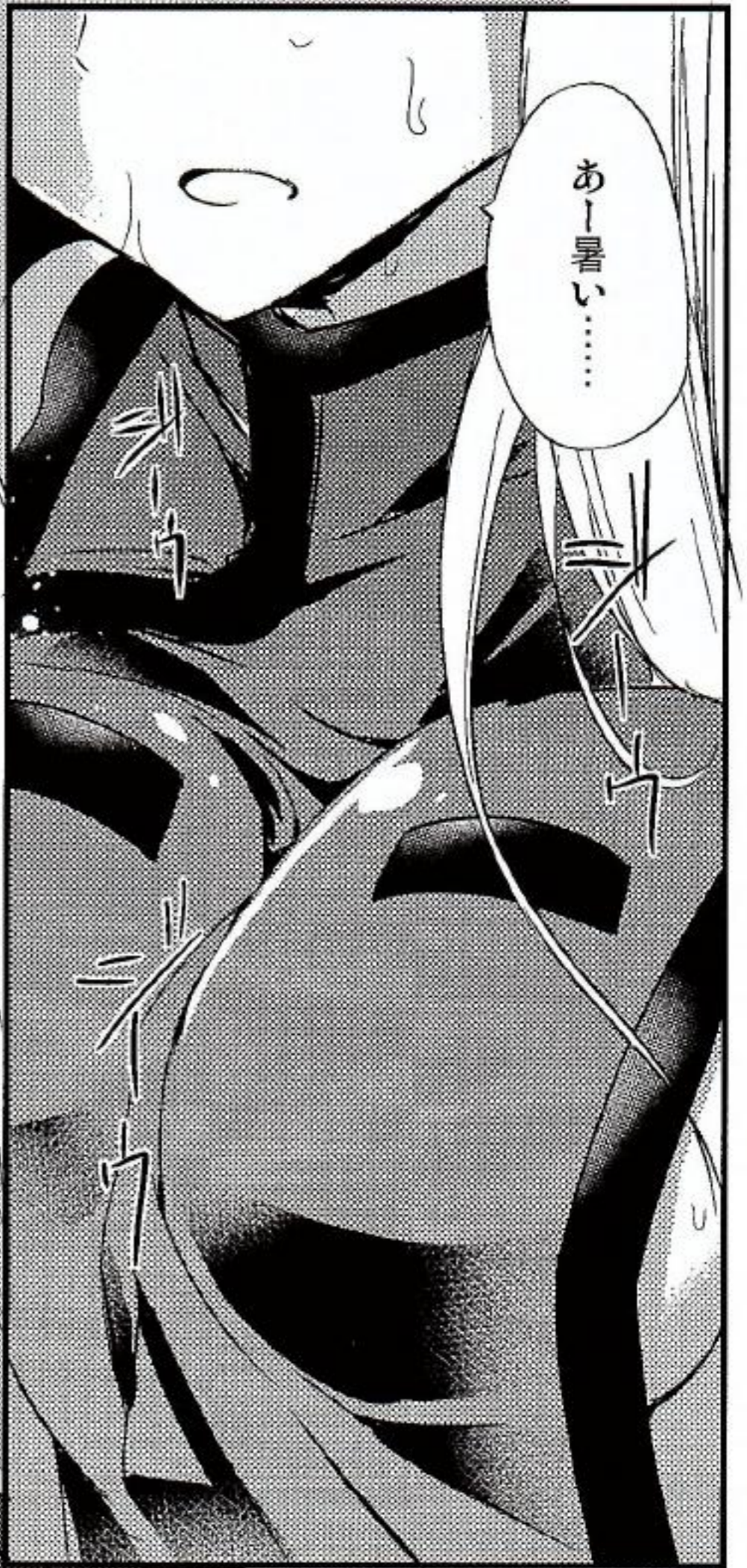
チュツ

チュ





毎年この季節は  
辛いわねえ……



あー暑い……



まあ季節は  
流石に  
どうしようも……

まあ夏も  
ずっと続くという  
わけではないですし

夏がずっと……  
その手があったわね

?

らーん

ココらへんの『夏度』を  
幽々子のトコにでも  
届けてやりなさい

控えめに言って  
怒られるのでは？

はい  
呼びましたか紫様

……っ

なんて格好  
なさってるんですか！

だって  
暑いんだものー



はしたないから  
今スグやめてくださいっ

橙が真似したら  
どうするんですかっ

もっ  
うるさいわねー

……えっ!?

ポンッ♡

やっ  
ちよっ……!

ゆ、紫様あ……!

あなたも  
少し涼みなさいな

それに  
この方が彼も  
喜んでくれるわよ?

えっ

あっはい  
確かにとても  
眼福ではありますが









いえ……  
そんなことは……

それとも  
嫌かしら……？

それじゃあ  
何も問題ないわね



あなたがこの格好で  
シたいてって  
望んだんだもの

……ね？



都合よく変態性を  
でっち上げられて  
しまった気がするが

何かしら苦言を  
呈しようとする  
唇で言葉を塞がれた

あん

ん

あ

紫を縁側に押し倒し  
豊かな双房をこれでもかと  
乱暴に揉みしだく

掴んだ手から伝わる  
柔らかな感触が  
興奮と幸福感を  
もたらしてくれた

……都合よく  
利用されたのだから  
こちらもお望み通り  
楽しませてもらおうか

♡♡


♡♡♡

♡

♡


♡





固くなり始めた乳首を  
丹念に舌で転がし  
吸い上げると  
可愛い声が漏れ始める

舌の刺激に反応し  
身体がピクンと跳ねさせ  
目を楽しませてくれた



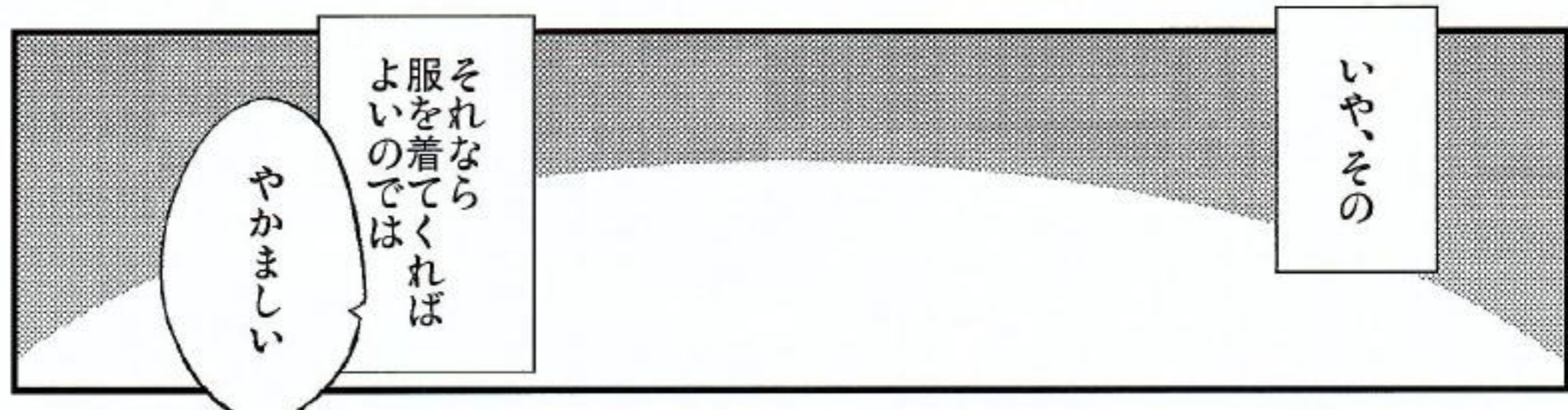
片方の胸を  
好き放題揉みしだき  
もう片方の胸に  
顔を埋め感触を楽しんでると





お前の望みを  
聞いた結果なら

この格好をしてる以上  
シてあげないと  
いけないよなあ？



やかましい

それなら  
服を着てくれば  
よいのでは

しゃん



つい声を  
上げそうになると  
紫に胸を押し付けられ  
口を塞がれた

柔らかな双丘が  
愚息を押しつぶし  
心地良い刺激を  
与えてくる





甘い香りに脳が浸食され  
限界に達するのに  
そう時間はかからなかった



堪え切れなかった欲望が  
藍の顔や髪を  
白く染め上げる

藍は顔についた精子を  
愛おしそうに  
一つ一つ丁寧に掬い  
口へと運んで行く



すっごい出たな……

量もだが……  
なんだか濃さも  
いつもより……

それだけ気持ちよく  
なってくれたって  
ことよ

……よっぽど  
気に入ったんでしょ  
うか  
この格好

……ほら  
次は私達にも、ね？



布団に寝かせ  
二人の足を開かせると  
綺麗なワレメから  
物欲しそうに愛液を垂らし  
ひくつかせる光景が広がる

せっかくの良い眺めなので  
しばらく眺めたり  
舐め回したり  
イジったりしていたが

二人共どうやら  
待ちきれない様子なので  
ご要望に  
お答えすることにしよう



後ろから藍の腰を掴み  
愚息を挿入する

藍も橙と同じで  
獣の性か  
この体勢で突かれる事が  
好きらしい

膣内は溶けそうなほど  
熱くなってお  
待ち望んだ物を  
飲み込まんとばかりに  
締め付けてきた

優しく胸を揉みながら  
乱暴に突いてやると  
ビクビクと身体が震え  
快樂の喘ぎ声を聞かせてくれた





一旦藍から  
愚息を引き抜き  
今度は寂しそうな  
表情を見せている  
紫の秘所に擦り付ける

紫の足を掴み  
あてがった愚息で  
秘裂を一気に貫く



藍と同様  
腔内はきつく締め  
最奥まで導こうと  
蠢いてきた



弱いところを  
重点的に攻めてやると  
トロンとした表情を浮かべ  
快楽に溶けていくのが  
伝わってくる



二人の身体を  
密着させるように寝かせ  
並んだ秘裂を交互に突く

膣内の感触の違いを  
楽しみながら  
引き抜き、再び挿入する

気づけば二人も  
昂ぶってきたのか



膾内だけじゃ物足りず  
 お互いの口内までも  
 貪り合っているようだ




愛液が混ざり合い  
 腰を打ち付ける度に  
 卑猥な水音を響かせる



二人が  
 絶頂を迎えると同時に  
 膾内へ大量の欲望を  
 注ぎ込んだ







二人は流し込まれる  
精液の迸りに呼応するよう  
身を震わせ  
腔奥で精液を受け止める快楽を  
味わっているように見えた

猛暑の中――

行為が終わった室内は  
ジツトリと  
湿度の高い空気で  
満たされており――



全員暑さや淫句、  
快樂の余韻等々で  
動くのすら  
億劫なようだった

体中もはや  
誰のものかわからない  
様々な体液にまみれた  
凄惨な姿になっている

……これ今  
すごい  
匂いでしょよね

起きたら  
水浴びしないと……

……しばらくは  
暑い日が  
続きそうだし――

毎日この格好も  
悪くないかしらね？

終



# 睦言 - ムツミゴト - 肆

2016年 8月13日 初版発行  
コミックマーケット90

発行・制作

みどりねこ

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN (上海アリス幻楽団)



みどりねし